

エンベディッド・バリューの 開示について

2011年6月23日

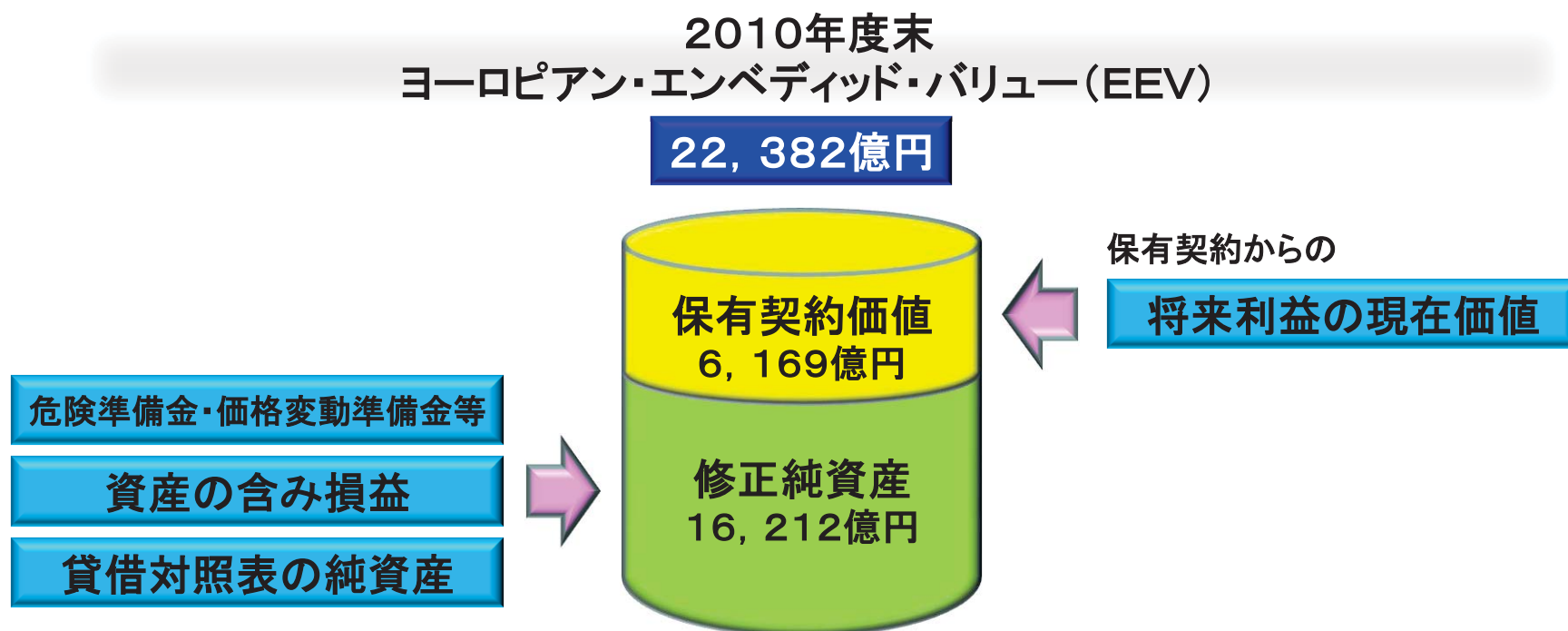


1. エンベディッド・バリュー (EV) とは
2. EVの特徴
3. 2010年度末のEV数値について
4. 変動要因分析
5. 感応度分析

当社のEVについて、専門的知識を有する第三者機関(アクチュアリー・ファーム)に検証を依頼し、意見書を受領しています。意見書の詳細については、当社ホームページ(<http://www.meijiyasuda.co.jp/>)をご参照ください。

1. エンベディッド・バリュー(EV)とは

- 生命保険会社における「企業価値」は、一般的には「保有契約価値」と「修正純資産」を合計したものを指し、これをエンベディッド・バリュー(EV)といいます。
- 当社は、EVのうち、市場と整合的に評価した比較的先進的な手法であるヨーロッパEV(EEV)を採用しています。

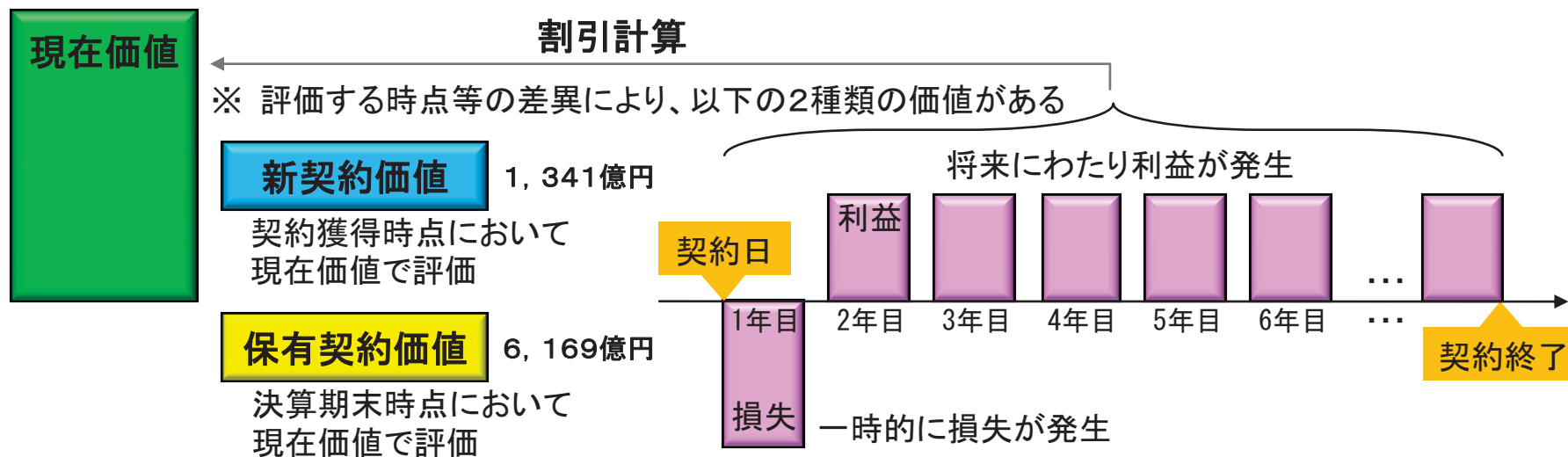


※ EVは、ご契約者をはじめ、様々なステークホルダーの方々に有用な情報をもたらすものと考え、国際的な監督規制や会計基準の動向も見据え、当社では2010年度決算よりEVを開示することとしました。

2. EVの特徴

特徴①: 保険契約の収支構造を把握する指標

- 生命保険契約は、販売時に集中的にコストが発生しますが、将来にわたり生み出される利益によりそのコストを回収することが期待される収支構造となっています。
- EVは、全保険期間を通じた損益を現在価値で評価し、長期にわたる生命保険会社の収支構造を把握するものです。



特徴②: 現在の財務状況を総合的に表わす時価ベースの指標

- EVは、保有する資産と負債の双方を時価評価したものであり、会社の現在の財務状況を総合的に表わす時価ベースの指標です。

3. 2010年度末のEV数値について

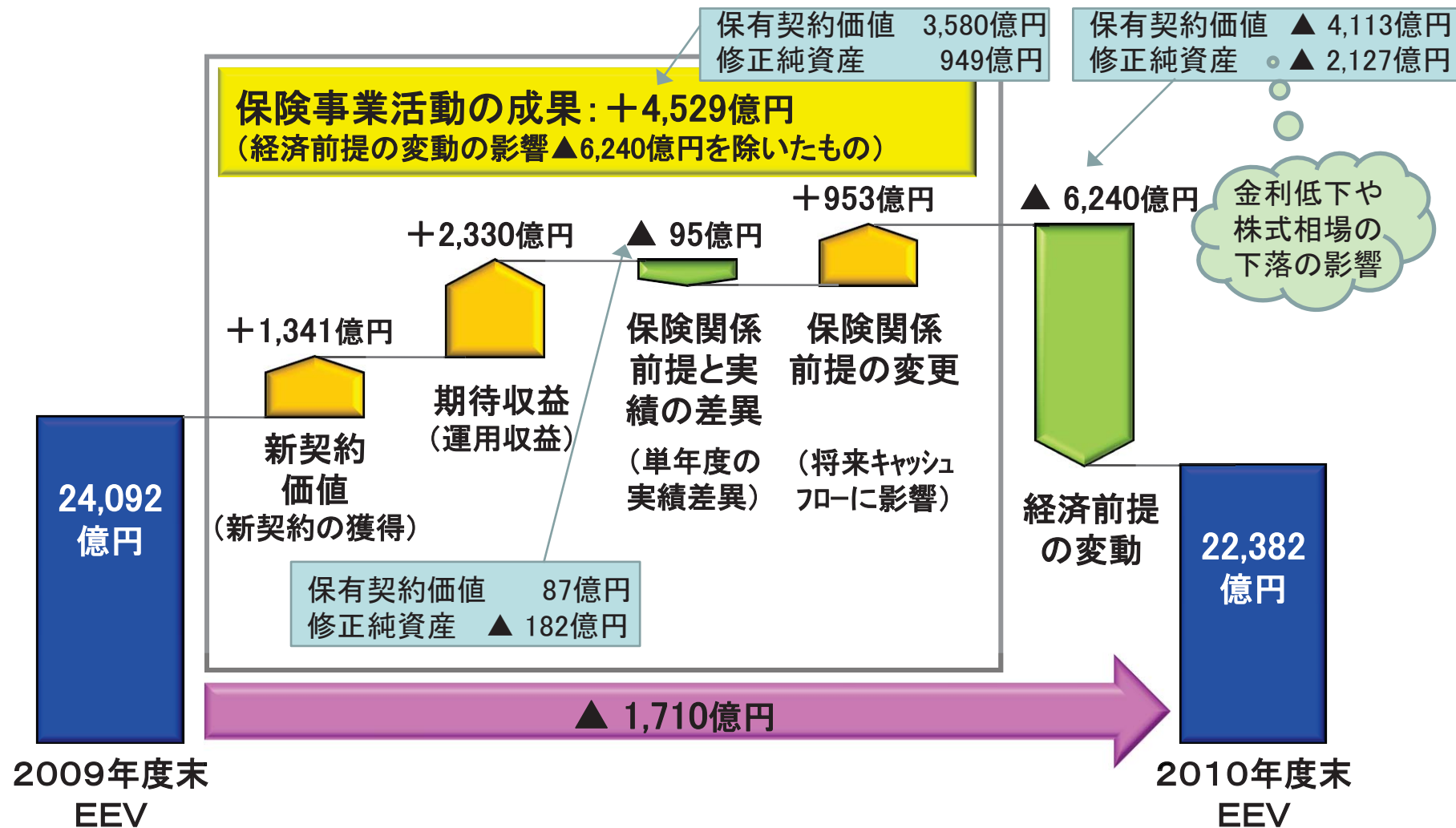
- 2010年度末のEEVは、2009年度末から1,710億円減少し、2兆2,382億円となりました。
- 「保有契約価値」は、主に長期金利の低下などにより532億円減少し、6,169億円となりました。
- 「修正純資産」は、株式相場下落などによる有価証券含み損益の減少により1,177億円減少し、1兆6,212億円となりました。
- 「新契約価値」は、販売量の増加および解約失効率の改善などの影響により、2009年度から363億円増加し、1,341億円となりました。

	2009年度末	2010年度末	増減
EEV	24,092億円	22,382億円	▲ 1,710億円
保有契約価値	6,702億円	6,169億円	▲ 532億円
修正純資産	17,390億円	16,212億円	▲ 1,177億円

	2009年度	2010年度	増減
新契約価値	978億円	1,341億円	363億円

4. 変動要因分析

○EEVは1,710億円減少しましたが、経済前提の変動による影響を除いた「保険事業活動の成果」に関するEEV増減額は+4,529億円と大きく増加しました。



5. 感応度分析

- 国際的な監督規制・会計基準の動向等も踏まえ、従来より時価ベースの内部管理（サープラス・マネジメント）を推進しており、資産デュレーション（金利感応度）の長期化や株式の流動化など、金利リスク（感応度1～2）、価格変動リスク（感応度3）を抑制する取組みを行なっています。
- また、EVを向上させるために、事業費の効率化や継続率・更新率の改善など、引き続き経営努力を重ねてまいります。

前提条件	変動額	
感応度1: 金利(リスク・フリー・レート) 50bp上昇	1,367億円	変化額を抑制するため 資産デュレーションの 長期化を推進しており、 変化額は縮小傾向
感応度2: 金利(リスク・フリー・レート) 50bp低下	▲1,678億円	
感応度3: 株式・不動産価値 10%下落	▲2,377億円	株式の流動化を推進
感応度4: 事業費率(維持費) 10%減少	833億円	事業費の効率化
感応度5: 解約失効率 10%減少	1,030億円	継続率・更新率の改善